

令和8年度 磐田市行政経営審議会 第1回分科会 議事録

【日 時】 令和8年5月 13 日(水) 18時30分から20時30分まで

【出席者】

●委員 5名

大杉幸弘 委員 砂川利広 委員 高柳裕久 委員 守谷充子 委員 藤崎淳 委員

●事務局 6名

企画部長 スポーツ文化観光部長 経済産業部長 政策推進課課長・グループ長・主任

【内容】 第3次総合計画前期基本計画(素案)の「分野1 産業・雇用」「分野2 スポーツ・文化・観光」についての検討

第3次磐田市総合計画前期基本計画(素案)についての検討

【分野1 産業・雇用】

●基本政策1 元気な農林水産業の育成 についての主な意見

- ・個人農家が減り、法人が広い面積を担って大規模農業化しているが、畦畔や法面、用水路の管理などもついてくるため、面積が大きくなってくると、そういった諸々の管理が負担であり、課題。
- ・都市部で農業をやりたい人はいるため、首都圏から就農希望者を呼び込み、定住させる取組が必要。そのためには衣食住がそろっている環境が大切。
- ・個人が農業によいイメージを持って、実際に就農しても、現実には厳しいところがある。法人が受け入れてノウハウを伝えるなどして、就職や独立につなげる形ができるとよい。
- ・農業は繁忙期がはっきりしているため、収穫体験などの企画がスポットであっても面白い。
- ・個人で農業をやるのは限界。法人化を推進すべき。融資しやすくなる。お茶の例だと、静岡は個人が多いが、鹿児島は法人経営という目線で農業生産法人化して成功している。承継の問題も解決できる。
- ・条件が悪い農地が耕作放棄地になっているため、飛び地の基盤整備など、効率的な農業ができるようにハード整備を進めてほしい。
- ・種や肥料を外国に頼っている。国際問題に左右されないように、国内で賄えるようになるとうい。
- ・生産者はただ作るだけでは実入りが少ないため、収益化、儲かる農業の全体的な仕掛けが必要。
- ・和栗協議会が好例。多様な主体が連携する枠組みを創り、付加価値を付けたお菓子を開発、販路開拓している。栗農家からも定価の倍の価格で買い取っており、農家が儲かる農業の仕組みに繋がっている。レモンや海老芋にもそういう周りを巻き込んだ儲かる農業の仕掛けづくりができるとよい。
- ・山の荒廃が気になるため、産業と連携した山の活用や、自伐型林業の取組をぜひ進めてほしい。

●基本政策2 中小企業等の競争力強化 についての主な意見

- ・磐田市は第2次産業が盛ん。最近の物価高で賃上げが言われているが、中小企業はなかなか対応が難しいので、中小企業の支援をどうやって進めていくか。
- ・中小企業の課題としてあがるのは、後継者問題、資金繰りもあるが、人手不足の対応が大きなテーマ。外国人の活用をいかに進めることができるかが課題。磐田市ならではの、外国人から選ばれるまちづくりや支援が行えるとよい。
- ・地場産業のコーディネートは、協同組合からも企業が抜けていっており、本気で復興させようと思ったらかなりの労力が必要。
- ・ブランド価値を上げることで、やってみたい人が出てくる。工程を見直すなど、残すために何をしたらよいのか検討することが重要。
- ・今までのような細分化された分業形態の維持は厳しいので、一体的な生産体制を作る。AI の活用やロボットを活用して生産体制を抜本的に変えるのも面白い。大企業の力を借りても良い。
- ・産業分野においても地域おこし協力隊の制度を活用しても面白い。

●基本政策3 新たな産業の創出と雇用の確保 についての主な意見

- ・磐田市は交通の便が良く、大企業もあるので企業立地のニーズがある。企業が求める要件と提供できる土地がマッチするとよい。
- ・浜松市と比較すると用途制限が多い。農振除外はハードルが高いと感じる。
- ・スタートアップの育成は非常に重要。創業支援については、商工会議所とも連携し、相談窓口を設け、チャレンジサポーター制度に取り組んでいると思うが、取組をパワーアップさせてほしい。
- ・輸出関係企業は先行きが厳しい。新たな産業・スタートアップの呼び込みが必要。スタートアップが拠点を構えると補助金をもらえるなど、支援体制の整備が必要。
- ・次世代型の産業クラスターや付随した起業、大学発のスタートアップ、サプライチェーンをつくるなど、磐田で一体的にできるとよい。
- ・磐田の強みは、ヤマハや NTN などの大企業がいるところ。ゼロから 1 を生み出すインキュベーション施設も夢はあるが、磐田市は 1 を 10 にする事業化の場所だと思う。インフラ支援をしつつ、大企業を抱き込んで事業化に持っていけるというのは、磐田の強み。
- ・大企業の OB が多く住んでいるのは強み。能力のある OB が社会参加する場をつくり、ノウハウを地域に還元できる仕組みを作るのがよい。
- ・外国人が働きやすい環境の整備をした企業に対しての補助金のようなものがあってもよいのではないか。
- ・隣の浜松市は、インド人などの外国人材を呼び込むために、インターナショナルスクールを開設した。働く場所や学ぶ場所は浜松市でも、住む場所は磐田市となるように独自の支援ができると良い。

【分野2 スポーツ・文化・観光】

※分野2には「自治・共生」もあるが、「自治・共生」は第6回分科会で検討。

●基本政策3 スポーツのチカラを活用したまちづくりの推進 についての主な意見

- ・スポーツのマネタイズの考え方も大切。医療や静岡産業大学のスポーツ科学科との連携など、専門家の知見を取り入れながら進めていけるとよい。
- ・地域スポーツの指導者育成をサポートする、磐田市としての仕掛けがあるとよい。優秀な OB もいる。いい指導者がいれば人も集まる。地域全体で応援していく体制が重要。
- ・磐田市はプロスポーツチームがあるが、それだけに引っ張られずに、マイナーなものも含む多様なスポーツに親しめる環境づくりも重要。
- ・ラグビー選手は、活動期間が短い。セカンドキャリア支援も大事。
- ・元プロスポーツ選手の知名度を活用して、広告塔になってもらうような視点も大切にするとよい。
- ・女子サッカーのボニータの選手は民間企業に勤めながら練習している。こうした選手も地域で応援できるとよい。
- ・スポーツと他分野の連携の部分では、農業との連携もあり。例えば、有機農業で育てた野菜を食べることによって、選手のパフォーマンスが向上するかどうかというデータを取ってみても面白い。
- ・磐田市スポーツプラットフォームには 100 社弱が参加している。そこでは、スポーツをフックに他分野が繋がる場を作っている。そういった取組がもっと広がると良い。

●基本政策4 文化・芸術・歴史資源の活用 についての主な意見

- ・磐田には「スポーツ」のイメージはあるが、「文化」や「観光」のイメージがあまり沸かない。
- ・新しい市民文化会館「かたりあ」ができ、良いものを見る場ができた。かたりあの企画の集客は平均で 90%以上。文化振興会が他市事例を研究している成果。一方でイベントない日は誰もいない状態。4 月に魅力的な展示ができる場が「にこっと」の2階にできた。拠点として文化を発信できる余力はあるはず。
- ・小学生のマーチングバンドやこどもミュージカルといった独自の文化も根付いているので、今後も文化に触れる機会を作る取組を大切にしたい。
- ・子どもが文化芸術に触れる機会を充実させてほしい。市内のダンス教室は順番待ちの状況。
- ・毎年かたりあでダンスイベントが開催されている。磐田の PR 大使には、エグザイルの AKIRA 氏がいるので協力して盛り上げると面白いのではないかと。
- ・歴史は、ポテンシャルは高いが、その良さが伝わりにくいのが課題。
- ・国分寺の発信の仕方が重要。素晴らしい物と聞いているが、知るすべがないのはもったいない。語り部の育成など、ソフト部分も大切にしていけるとよい。

●基本政策5 シティプロモーションとにぎわいづくりの推進 についての主な意見

- ・磐田はホテルが圧倒的に少ない。大企業への出張者やスポーツ観戦もあるので、需要はあるのでは。実際に、磐田駅前にある某ホテルは回転率が非常に良いと聞く。
- ・観光客は、JTB の 2026 年のデータによると、県内半分、県外半分。県内だと浜松市6割。8割以上が車で移動している。
- ・市内観光ができて、目的地以外にも寄ってくれるとよい。点ではなく、面での移動導線を意識。
- ・指標に関して「観光交流客数」を掲げている。他市町の総合計画の観光の分野も、観光交流客数を指標にしていることが多いが、他に適切な指標がないか要検討。
- ・国分寺は上物がないため、価値を市民に伝えるのが難しい。駅前の軽トラ市からの誘導には、一定の効果があり、歴史に興味のない若い人たちにも国分寺の魅力発信ができていた。これから大きなウネリにするために、地域資源と観光との連携を考えることが重要。
- ・文化財として、市内には貴重な古墳がたくさんあるので、それを観光資源としてどう活用できるか。今年から文化財の所管部署が市長部局に移ったので、今までの保存重視の考えから、活用重視の考えでやっていくのも大切。
- ・シティプロモーションの観点からは、他市町から通学している高校生に磐田の歴史や文化、産業を知ってもらって磐田に愛着をもってもらうことが U ターンにもつながるのではないかな。
- ・「推し活」文化の活用。インフルエンサーも活用し、コアなファンにも刺さる情報が提供できると良い。
- ・行政は全ての分野の情報をフラットに発信する必要があるので情報過多になりがち。興味ない情報が多いとフォロワーが離れていってしまう。
- ・リノベーションまちづくりの機運が高まっており、新しい店ができはじめている。建物整備だけでなく、いかに人を巻き込めるかの仕組みづくりが重要。
- ・浜松でリノベーションまちづくりの取組が進んでいるが、行政は過度に介入しないことも大切。